

主の降誕 日中のミサ

ヨハネ 1・1-18

2021.12.25

9:00 のミサ カトリック高円寺教会
ジョン・ジュン神父 (クラレチアン宣教会)

イエス様の誕生日とわたしたちの誕生日、このミサを一緒に捧げて祈りましょう。

初めにみ言葉です。このみ言葉は世界を光と闇との二つに分けています。イエスさま降誕の前と降誕の後、彼は暗闇の中ではなく、光の中に存在しておられます。み言葉がある場所には必ず、光が照らされます。

洗礼のときにヨハネがやって来たのは、使命を果たすためです。彼は光の証人です。彼が強調するのは自分の光ではなく、すべての人を光に導くためです。

人々はこの光どう受け入れますか？

光を受け入れず暗闇が好きな人は、邪悪に満ちているからです。光の中で生きることを拒んでいるからです。この光を受け入れたら、本当の神様の子どもになります。

み言葉には肉となって、“肉”ということは人間の弱さ、もろさ、限界です。（例えば、感情、情感、感覚、文化伝統、体の疲れ、病気、誘惑、心の衝突など）人間のよう生きています。ただイエスさまには罪がありません。

洗礼者ヨハネがイエス様は神様と証しました。

イエス様は真実の神様が見えます。哲学や思想で考える必要ありません。イエス様のみ言葉と行いを見て、黙想すれば答えが見えてきます。彼の教えを聞いて、彼が誰に出会うのか、どのように人を愛しているのか、誰と一緒にいるのか、誰を批判しているのか、誰を選んで誰を守っているのかを見てみましょう。

彼の一生は、神が人間を愛しているしるしを見せてくれました。そして、このミサで周りの人たちも神様の光が見えますようにお祈りしましょう。